

青葉もゆる

東北大学男声合唱団
OB会会報 第2号
発行日(22.1.16)

東北大学男声合唱団OB会東京支部
支部役員改選について

平成二十一年十一月二十八日の東京支部第四回総会にて、左記のとおり改選されました。

記

支部長 生馬洋 (40) 新任
事務局長 小松正佳 (46) 留任
幹事 北林均 (44) 留任

長崎文康 (49) 新任
嵯峨秀夫 (57) 新任
HP管理 松本寿浩 (41) 留任
会計監事 石川幸良 (45) 新任

二期四年、春日前支部長には、OB会の組織化に尽力いただき、二回のジョイント演奏会
は大きな成果を生みました。

今回、生馬さんに支部長を引受けていただき
男声六十周年行事など多様なひろがりをめざ
していくことになりました。

また、長崎さん、嵯峨さんの幹事就任により
若い年次への方針の浸透、意見の汲み上げな
どが期待されます。

HP管理は引続き松本さんをお願いします。
専門家の技で、情報が体系化されています。

東京支部、仙台支部の分類もあり、コンサー
ト情報は、会員の関係する演奏会を案内し、
いろいろな団体でOBが活躍している様子が
よくわかります。

東京支部活動記録(平成20年、21年度)
一、執行部主催の活動

(一) 東北大学創立百周年記念歌集の発刊
清水仙台支部長がまとめた「東北大学学生歌に
ついて」を中心に編集。旧制高校の歌なども加
え、西澤潤一氏に巻頭の言葉をいただき発刊。

(二) 3大学ジョイント

かつてのDGKの盟友、名古屋大学、横浜国立
大学との組み合わせが具体化しました。

(21年6月27日、品川きゅりあん)
チャイコフスキー歌曲集に挑み、ブラボの声
が沸く演奏をすることができました。

二、現役への支援

(一) 定期演奏会への支援

55回定演：OB現役合同ステージ「富士山」

東京から20名参加。10万円支援

56回定演：会計から2万円支援。

カンパ実施。25名、9万円

(二) 3大学ジョイントへの現役招待

3万円で2名招待

三、ホームカミングデイ企画演奏会賛助出演

21年10月11日萩ホールの第3ステージ、

戸田靖男さん(30)の指揮で「月光とピエロ」

を演奏しました。東京から14名参加しました。

この様子について、戸田さんから寄稿していただ
きました。

四、東京支部総会

21年11月28日、如水会館にて、東京支部

総会を開きました。

昭和26年卒から平成4年卒のOBまで、60名

のOBが出席しました。

OBの各種活動記録
一、コール青葉の活動

(一) 東京演奏会2008

3月9日オペラシティコンサートホール

男声合唱組曲「月下の一群」(指揮 岩淵秀俊)

男声合唱組曲「青い照明」(指揮 平栗愷史)

混声合唱組曲「蔵王」(指揮 岩淵秀俊)

オリジナルステージ「北の空から」

指揮 岩淵秀俊 ピアノ 小原孝

(二) 混声合唱曲「津和野」楽譜出版記念演奏会

2008・7・25 奏楽堂

天来の妙音「チェレスタと声明そして合唱」

(三) 東京演奏会2009

3月15日オペラシティコンサートホール

男声合唱「詩篇23」(指揮 岩淵秀俊)

混声合唱組曲「筑後川」(指揮 岩淵秀俊)

男声合唱「智恵子抄巻末のうた六首」

「或る夜のこころ」(指揮 樋本英一客演)

小原孝のピアノと合唱でつづる「こころの旅」

指揮 岩淵秀俊 ピアノ 小原孝

(四) 過ぎゆく夏のコンサート

2009・8・28 グローリアチャペル

混声合唱組曲「空」ほか

(五) 安野光雅展・記念コンサート

2009・8・29 町田市民文学館ことばらんど

混声合唱組曲「空」ほか

(六) 東京演奏会2010(予定)

3月13日オペラシティコンサートホール

男声合唱「Die Nacht」「おらしよ」

混声合唱「方舟」

小原孝のピアノと合唱「花ごころ 人ごころ」

二、トンペイメモリアルズの活動

昭和50年代卒のOBを中心に東京男声合唱フェスティバルにあわせて毎年結成をくりかえしています。

(一) トンペイメモリアルズ8 (26人編成)
2008・11・23

「雨中小景」(多田武彦) ほか

指揮 須田信男 (52)

人気投票で1位になり、2006年に次いで翌年の招待演奏団体になりました。

(二) トンペイメモリアルズ9 (35人編成)

2009・11・23 (招待演奏)

北欧合唱曲3曲 指揮 嵯峨秀夫 (57)

組曲「雨」 指揮 加藤旨彦 (54)

終曲・雨の小山昌人さん(53)のソロは聴く人の胸にしみる演奏でした。

三、泰平コリアーズの活動

佐藤泰平さん(34)の演奏会に坂水久之さん(37)のよびかけで結集したグループです。

(一) 『歌唄い』川口京子と鈴木雪夫・男声合唱
2008・9・21 近江楽堂

佐藤泰平さんは長く宮澤賢治を研究しており、その命日に演奏会を開いています。これもその継続です。宮澤賢治の童話を音楽劇にしたものを佐藤泰平さんのリードオルガンで演奏しました。オルガン伴奏で「月光とピエロ」を演奏しました。

(二) 瞬きの詩人『水野源三讃美歌集』演奏会
2009・2・6 ルーテル市ヶ谷センター
目の瞬きで文字を指示し作詩した水野源三氏の作品を独唱、語り、合唱に構成したものです。

四、クワルテットの活躍

(一) フラッピング・ブラザーズ

一関演奏会 2008・9・27

(T1村上敏明、T2白田正善、B1大島修三
B2景山鎮一)

前年の東京演奏会から、バスの景山さんの地元の関に足を延ばして開催されました。

仙台からOB引地さん、阿部さんが応援に駆けつけ会場の一関文化センターが満員となる300名の大入りになりました。

(二) スウィング・エコーズ

2008・10・15 大田区民プラザ

(T1内田公生、T2長田邦明、B1白田正樹
B2杉田賢一)

フラッピング・ブラザーズの動きに刺激され、舎弟分が、活動を再開しました。白田さんの帰国滞在のスケジュールをぬって練習を重ねました。

ギターで小暮義雄さん、一ステージをフラッピング・ブラザーズが応援しました。

(三) 合同暑気払い歌会

2009・8・8 オープンカフェ・のほほん

フラッピング／エコーズの合同で気軽なスタイルで「歌会」が開かれました。

五、東京男声合唱団創立60周年演奏会

東京男声合唱団は清水脩が初代指揮者で「月光とピエロ」の初演団体です。一時存続も危ぶまれましたが、伊藤愛二さん(26)の応援要請に坂水久之さん(37)が応じ、練習指導に参じ、東北OBを呼び、20名台に回復しました。200911・6記念演奏会にこぎつけました。「月光とピエロ」が力強く演奏されました。

会員からの寄稿

ホームカミングデイ企画演奏会の『ピエロ』の取組について指揮の戸田靖男(30)さんに、寄稿していただきました。

50余年ぶりのピエロ 戸田靖男(30)

「・・・ピエロピエレット ピエロ」2009年10月10日、東京からも多くの方々のご参加をいただいた現役・OB合同による東北大学男声合唱団の重厚で力強い歌声が萩ホールに響きわたり、大きな拍手に包まれた。卒業以来、混声合唱とのかかわりが殆どで、男声合唱に接する機会があまりなかった私にとっては、50余年ぶりの「月光とピエロ」であった。

今回のコンサートで男声ステージの棒を振ってほしいと清水廣行氏から依頼があり、曲目については「月光とピエロ」はいかがですか」とのお話しにこの組曲を仙台で初めて演奏した現役の頃の自分を思い出し喜んでお引受けした次第である。

私がこの組曲を演奏したのは1953(昭和28年)12月12日、東北大学音楽部第41回定期演奏会であり、当時のプログラムによれば「月夜」「秋のピエロ」「月光とピエロとピエレットの唐草模様」の3曲だけの演奏だった。この年は11月23日に全日本合唱コンクールが仙台で開催され、東北大学男声も出場した。(課題曲「海」、自由曲Hegarrの「夕べ」、結果4位) また、定演ではブラームスの「アルトラプソディ」が予定されており今考えればそれらの練習に追われて「ピエロ」の全曲までは手がまわらなかったのではないかと思われる。その時、我々の使用した譜面は津田博氏

（昭和32年卒T1）による立派なガリ版刷りのもので、それには24th・Nov1953の日付がある。この11月24日は、前述のコンクールの翌日であり、その日から練習を始めたのか、あるいはそれ以前から部分的に練習をしていたのを全曲まとめた譜面を作ったのかについて、記憶は定かでない。（過日、津田氏にも問い合わせてみたが彼も記憶していないとのこと）

私の手許に、古くなって黄ばんでしまっている小さな「月光とピエロとピエレットの唐草模様」の譜面がある。「音楽之友」八月号付録と書かれており、「月夜」から「ピエロの嘆き」は七月号付録に掲載とも書かれてある。（残念ながらこれらの譜面は今手許にない。）これについて先般音楽之友社に問い合わせたところ、昭和26年の七、八月号であることが確認され「月光とピエロ」が印刷された最初のものであることもわかった。そうだとすれば、東京男声合唱団により全曲が初演されて間もなくのことであり、昭和28年にはまだ他には出版されていない筈であるとの音楽之友社の話から我々の楽譜はこの譜面によるものと考えられる。

第41回定演では三曲だけの演奏に終わったが、翌1954（昭和29）年7月9日、東北大学中央講堂（片平）で開催された東北大学男声合唱団発表会において全曲が演奏された。今となってみれば、当時はあまり深く考えることもなく、ただ若さを前面にたてた演奏だったのではないかと思われるが、それもまた学生時代の良さであったのだろうと思う。

ともあれ私にとって50余年ぶりの「ピエロ」初演時のメンバーも交えた当夜の演奏は、長年歌い継がれた東北大男声の伝統と実力が表れ、熱気に満ちたものだったし、一人ひとりの「ピエロ」が集まってまた一つの「ピエロ」が生まれたことを幸せに思う。

このような機会を与えていただいたことに感謝し、東京支部からは多数のご参加をいただいた他にも、お寄せいただいた御厚情に心から御礼を申し上げます。

9・11メモリアル「風の環」コンサート

白田正樹（48）（同会音楽監督）

毎年9月11日は、ニューヨークにとって『重い日』だ。歴史に『たら』がないように、人の一生に『もしもあの時、・・だったら』と振り返っても無意味だと言われる。でも『あの日』を経験した多くのニューヨークカーは、『たら』を想定することで今自分が生きていることに感謝するに違いない。私自身がそうだ。昔、2年余りTWTCの84階で勤務していた。丁度最初の一機が突っ込んだあたりだ。今でもぞっとする。

このような恐怖は現実から逃避させようとするようだ。事件から5年間私はグランドゼロだけでなくマンハッタンのダウンタウンにすら足を踏み入れることができなかった。人間はあまりに重い体験をするとそれを簡単には口に出すことができない。なる生き物らしい。事件に関わる体験を他人と語り合えるのに数年の歳月を要しているのだ。そして、もっと重い『たら』を抱きながら生きている人の存在に気づいた。ご遺族である。

『もし息子をNYに行かせていなかったら』『早朝会議がなかったら』という様々な『たら』を考えては何度も慙愧の念に苦しんで来られたことだろう。

コンサートへの企画

そんなご遺族の一人との出会いがコンサートの企画の契機となった。それは住山一貞さんという。

当時、富士銀行NY法人に勤めていた息子さんを事件でなくされた。東北大学のOB、合唱活動をしているという接点から、仙台の話題などを介して、親近感を深めた。氏は「日本ではこの事件は始めから『他人事』だ。9・11は人々の記憶から忘れ去られようとしている。年々、NYでの式典に日本からいらっしゃるご遺族も減ってしまった。」と嘆かれた。70歳になると顔のしわの刻みと震えるように話す声の弱々しさに『苦悩』の深さを読み取ることができた。その時、私たちも決してあの事件を忘れていないということを伝えなければならなかった。それは、音楽をとおしてできないかとコンサートのイメージが生れ、NYで活躍するプロの音楽家に呼び掛け賛同を得て、2008年「風の環」コンサートは具体化していった。皆さん、ギラなしのボランティアだ。

2009年のコンサート

2回目になる今年は、クラシックだけでなく、ジャズピアノ、レゲエ、ハードロック、ゴスペルなど多種多様な音楽が演奏された。しかし、今年の目玉は、住山さんの作曲した「レクイエム」を奥さまのマリさんが演奏したことだった。これに日本のメディアは過剰といえるほどの反応を示した。会場中央の通路はメディアのカメラでほぼ埋まってしまったほどだった。「天まで届け、母の祈り」と題して

新聞記事になった。こうした報道で、一人でも多くの日本人に9・11のことを記憶においていただきたいものだ。

コンサートの特徴

このコンサートで演奏される曲は、演奏家自身が作曲したオリジナルが多い。日本から参加したフルート奏者の福井恵利子さんは、作曲家プロデューサーとして活躍している斉藤恒義氏と共に参加してくれた。斉藤氏がこのコンサートのために作曲した2曲を披露してくれた。ジャズピアノストの後藤小百合さん、ロック歌手のピーター・バロン氏も9・11テロ事件で体験した自分の思いを曲にしたものを演奏してくれた。そしてご遺族である住山さん自作のレクイエムである。オリジナルティあふれる演奏会になったのだ。

最後の締めは合唱

プロのアーティストがたくさん出てくれて、演奏はうまく、しゃべりも楽しい。贅沢なプログラムだが、私は一つこだわっているのは最終ステージを合唱で締めるということ。去年は私が率いていたNY男声合唱団がトリで歌った。今年は、ハーレムの日本人合唱団に最後を託した。『魂の叫び』で人の心を揺さぶる力では合唱に勝るものはないと信じているからである。

2009年のDVDやプログラムをご希望の方はご連絡下さい。

音楽は心の小道 佐藤保生(46)

医師になって30数年、曲折を経て在宅医療に辿り着きました。岩手県で在宅医療を行った

後、4年前に故郷に戻って、石巻市立病院に在宅療養科を創りました。基盤づくりが終り、この春開業の予定です。

10年前釜石市民病院で在宅医療を行っていた時、認知症や高齢の患者さんとのコミュニケーションがとれず困りました。苦肉の策としてできたのが歌でした。自分の歌を披露したり、患者さんや家族と一緒に歌ったりしました。その様子がNHKで放映されたこともありました。医師が患者さんのお宅で歌を歌うのは奇異な感じがするかもしれませんが。しかし歌がびっくりするくらいの効果をあげることがあります。

80代の癌の終末期のおばあさんの話です。その患者さんの家で「みかんの花咲く丘」を歌いました。休みの日でしたので娘さんたちが3人ほど集まっていました。皆さんご存知のように、3番の歌詞は以下のようです。「いつか来た丘 かあさんといっしょに眺めたあの島よ。今日もひとりで見ていると やさしい母さん思われる」母を看取らんとしている娘さんたちには共感を覚える内容でした。皆さん涙ぐんで、私も涙声になってしまいました。

石巻に戻ってからはあまり歌ってはいません。診療の場で歌うことはそんなに簡単なことではありません。気恥ずかしさに打ち勝たなければならぬからです。「春の唄」を歌ったことがあります。その後たまたまNHKの歌番組で「ラララ、赤い花東車につんで・・」と歌われたそうです。患者さんが「先生の歌だ」ととても喜んでいたと線香上げに伺ったときに聞きました。

3年前から老化対策としてピアノを練習してい

ます。記憶力の衰えを何とかしたいと暗譜をテーマにしています。かろうじて15曲ほど暗譜しました。暗譜すると患者さんのお宅で弾くこともできます。クラシックピアノの暗譜ができたら唱歌など一緒に歌える曲を暗譜してみようと思っています。巻紙のようにたためるピアノがでているそうです。在宅医療に使えるのか興味深いです。

歌やピアノをおして患者さんに喜んでもらえたら、親しくなれたら、素晴らしいと思って音楽に打ち込んでおります。

佐藤さんの長い課題が具体化してきました。音楽と医療の融合を期待します。

七、訃報

洪不二夫さん(29、B1)

経済学部会報にて確認。2008年逝去

松永昌さん(31、指揮者)

2008年4月9日逝去

福地順之さん(43、B2)

2008年8月4日逝去、癌性腹膜炎

坂内司さん(h16)

2009年1月16日、心不全

坂下修さん(58、B1)

2009年6月26日、クモ膜下出血

ご冥福をお祈りします。

編集後記 編集時間に限りがあり、A4の4面版としました。()内は卒団年次です。寄稿いただいた原稿は内容豊かなものがそろいました。ありがとうございます。編集担当 小松正佳(46)